

ルールとマナー

校内音楽会からもう2週間が経ってしまいました。各学級の歌声は本当に素晴らしかったです。3年生で最優秀賞を獲得した3年1組は、市内音楽会に出場しました。さくらめいとの大きなホールいっぱいに「聞こえる」を響かせました。「さすが富士見中学校」という合唱でした。また、多くの部や個人が出場している県大会も、残すところラグビー部の試合（3位決定戦）のみです。どの種目も富士見中生は頑張っていました。市予選会から比べても一段階、二段階、チーム力が向上している様子を見ることができました。昨日、女子バレー部は川越市の会場で準々決勝に臨みました。相手チームは大変強く、セットカウント1-2での惜敗でしたが、相手選手の繰り出す強烈なスパイクに、ひるむことなく食らいつき、皆でボールを拾い、つないでいきました。いつか追い越す予感がします。

ところで、皆さんはバレーボールの基本的なルールは知っていると思います。先ほど「ボールをつないで」とお話しましたが、相手のコートに返すまでに、何回ボールに触ることができるのでしょうか？3回ですよ。どんなに頑張ったと言っても、4回も5回も触ってはいけません。反則です。同じように、スポーツにおいては、あらゆる競技種目にルールが存在します。ルールを守らず、好き放題やっしまえば、少しも面白くありませんし、試合もめちゃくちゃになってしまいます。競技自体も成り立ちません。わかっていると思いますが、スポーツにも限りません。世の中全てに当てはまります。日常生活も法律や条例があるから安心して暮らすことができます。学校生活では校則がルールに該当します。

今日ここで、お話したいのは「ルールを守ること」ではないんです。皆さんがさらにステップアップするために、「マナーを意識すること」についてお話をしたいです。規則や決まりの「ルール」に対して、「マナー」は辞書などを参考にすると、礼儀のこと、思いやりを形にあらわしたものと考えることができます。マナーの具体的な例を、スポーツで考えるならば、誰もが体験した「ドッジボール」を例にしたいと思います。ドッジボール協会の定めるルールには「顔や頭部にボールをぶつけない」とあります。でもそれだけではないでしょう。当たっても痛くないように、配慮すること（足下を狙う、至近距離からは全力で投げない・・・）これがマナーなのだと思うのです。12月に2年生が実施する東京校外学習では、駅で集合する場面、電車など公共交通機関に乗っている場面、見学する場面・・・それぞれの場面でのマナーがあります。社会・世間は厳しいです。中学生だからと許されるわけではありません。だから、学校では社会に出て困らないマナーを身に付けさせる必要があります。1週間前の11月8日、生徒指導主任の小山先生が皆さんに対してお話をしてくれました。無言集会（体育館に入場し、お話を聞き、体育館から退場するまでの間を無言とすること）について、お話をしっかり聞くのはマナーだと説明をしていました。その通りです。皆さんに身に付けて欲しいマナーはたくさんありますが、現段階で最も心配だったのが、集会時のマナーだったのです。ですから、学校全体で重点的に取り組みましょうということになりました。お話を聞くことはもちろん、これだけの大人数が集う場では静かにすることが当たり前なのです。校外学習だけでなく、義務教育である中学校を卒業し、社会に出ていくときに困らないよう、皆さん一人一人が認めてもらえるように、富士見中学校では、「無言集会」に取り組みます。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣